

## 26年1月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成25年 12月20日～ 26年1月10日

## 2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
1月分の回答企業数は6社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		26/1月	2月	3月
入荷動向	スギ	△ 75.0	△ 25.0	0.0
	ヒノキ	△ 33.3	△ 66.7	△ 66.7
	カラマツ	△ 60.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	50.0	50.0
消費動向	スギ	△ 25.0	0.0	25.0
	ヒノキ	△ 66.7	△ 33.3	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	△ 20.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 75.0	△ 25.0	0.0
	ヒノキ	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
	カラマツ	△ 60.0	△ 20.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	0.0	50.0

スギ原木の入荷は1,2月の減少が3月には横ばいに、ヒノキは減少傾向で推移、カラマツは1月の減少が2,3月は横ばいに、トドマツは1月の減少が2,3月には増加に。

スギの原木消費は1月のマイナスが2月の横ばいを経て3月には増加に、ヒノキは1,2月の減少が3月には横ばいに、カラマツは1,2月の横ばいが3月には減少に、トドマツは横ばいで推移。

スギ原木の在庫は1,2月の減少が3月には横ばいに、ヒノキは減少傾向で推移、カラマツは1,2月の減少が3月には横ばいに、トドマツは1月の減少が3月には向けて増加に。

## (2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/1月	2月	3月
スギ	25.0	25.0	25.0
ヒノキ	50.0	50.0	50.0
カラマツ	70.0	70.0	30.0
米マツ	75.0	75.0	25.0
北洋カラマツ	83.3	50.0	16.7
その他	0.0	0.0	100.0

スギ、ヒノキ、カラマツ、米マツ及び北洋カラマツの原木価格は共に強含みないし強保合で推移。その他(南洋材)は1,2月の横ばいが3月には強含みに。

## モニターからのコメント

(原木荷動き)・スギ、カラマツ丸太は12月同様、入荷の遅れが見受けられる。稼働日数が減り消費は少しか減少。在庫は入荷が遅れた分減少。  
・原木の入荷が減少。在庫はカラマツ・トドマツ原木入荷減少続く。  
・スギ、ヒノキ及びカラマツ丸太共に入荷は大幅に減少、特にスギが前年比半減。稼働日をフル生産。丸太在庫は減少続き生産品目では一部不安。  
・スギは12月も消費の9割程度の入荷1月は丸太生産量増との情報あるも年末年始休みで未だ入荷少なめ、ヒノキは12月は予定より多く入荷、1月も生産量増、多少多めの入荷予定。年末年始の工場整備等で稼働日数少なく消費は減少、2月以降増加の見込み。スギ丸太在庫は若干減少、ヒノキは引き続き伐採業者の協力により増やしたい。  
・木材利用ポイント等の影響でヒノキが無く集材が大変厳しい状況、ヒノキの消費も同様に減少。カラマツLVLは3月になれば若干受注減になると予想。

(原木価格)・スギ、カラマツ丸太は強含み、横ばい。北洋カラマツは円安により価格上昇。  
・スギ、ヒノ及びカラマツ丸太共に全般的に値上がり、入荷も不安定で、安定供給を強く望む。  
・スギ、ヒノキとも市場価格は値下がりしているが合板用原木は現状横ばい。今後入荷状況見ながら価格決めたい。外材は産地の原木在庫少なく価格上昇。カラマツ丸太も出材少ない中、何とか確保しているが4月以降は不透明。  
・ヒノキは材が無く購入できず、カラマツは品不足で上昇。

## 26年1月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## 4. 調査結果の概要

## (1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		26/1月	2月	3月
生産動向	構造用(9mm)	△ 20.0	△ 20.0	△ 20.0
	〃 (12mm)	△ 16.7	△ 16.7	0.0
	〃 (15mm)	△ 16.7	△ 16.7	0.0
	〃 (24mm)	16.7	0.0	0.0
	〃 (28mm)	0.0	20.0	20.0
出荷動向	構造用(9mm)	△ 20.0	△ 20.0	△ 20.0
	〃 (12mm)	△ 33.3	△ 16.7	0.0
	〃 (15mm)	△ 33.3	△ 16.7	0.0
	〃 (24mm)	△ 16.7	0.0	0.0
	〃 (28mm)	0.0	20.0	20.0
在庫動向	構造用(9mm)	0.0	△ 20.0	△ 20.0
	〃 (12mm)	△ 16.7	△ 33.3	△ 33.3
	〃 (15mm)	△ 16.7	△ 33.3	△ 33.3
	〃 (24mm)	△ 16.7	△ 33.3	△ 33.3
	〃 (28mm)	0.0	△ 20.0	△ 20.0

生産動向は9mmは減少傾向で推移、12mm及び15mmは1,2月の減少が3月には横ばいに、24mmは1月の増加が2,3月は横ばいに、28mmは1月の横ばいが2,3月には増加に。

出荷動向は9mmが減少傾向で推移、12mm及び15mmが1,2月の減少が3月には横ばいに、24mmは1月の減少が2,3月には横ばいに、28mmは1月の横ばいが2,3月には増加に。

在庫動向は9mmが1月の横ばいが2,3月には減少に、12mm、15mm及び24mmは減少傾向で推移、28mmは1月の横ばいが2,3月には減少に。

## (2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/1月	2月	3月
構造用(9mm)		40.0	20.0	0.0
〃 (12mm)		33.3	16.7	0.0
〃 (15mm)		16.7	16.7	0.0
〃 (24mm)		16.7	16.7	0.0
〃 (28mm)		0.0	0.0	0.0

9mm、12mm、15mm及び24mmの出荷価格は1月の強含みないし強保合が3月には横ばいに、28mmは横ばいで推移。

## モニターからのコメント

(合板荷動き)・生産は工場の都合により24mmが増え、28mmが減、出荷は受注あるがトラックが取りにくく出荷できず、そのため在庫が増加。

- ・在庫なく、納期に追われた生産である、生産量＝出荷量。在庫なしがしばらく続きそうです。
- ・通常の生産体制で、厚物比率が生産・出荷共に高い。
- ・1,2月は稼働日少なく生産量は減。出荷は生産量即出荷量のため生産と同様。在庫は低水準のまま。
- ・針葉樹合板は単板不足で生産が少なく、需要多いが供給できず。

(合板価格)・横ばいながら、じり高の様相。

- ・高値安定。
- ・原木高、接着剤高及び運送費高でコストアップになっており希望価格を期待。
- ・原木価格と輸送費安定すれば横ばい。
- ・これ以上のアップは、マーケットの反発が予想されるも原木価格上昇により避けられないと予想。